

平成 30 年 10 月

平成 30 年夏期における山岳遭難の概況

(平成 30 年 7 月～ 8 月)



静岡県警察本部

地域部地域課

## 1 夏期（7月1日～8月31日）における静岡県内の山岳遭難発生状況

### (1) 発生件数等

区分 (夏期)	発生件数 (件)	(人)	事 故 者 数					
			死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救出	
県下全体	68(-1)	75(+2)	3(+2)	2(+1)	11(-2)	25(+7)	34(-6)	
内 訳	富士山	51(+1)	58(+4)	2(+2)	1(+1)	9(+2)	20(+6)	26(-7)
	南アルプス	12(-2)	12(-2)	0(-1)	1(+1)	2(-3)	4(±0)	5(+1)
	その他	5(±0)	5(±0)	1(+1)	0(-1)	0(-1)	1(+1)	3(±0)

※ 括弧内は前年同期比目

### (2) 特徴

- 富士山での事故がおおむね4分の3を占める。
- 転倒と発病による遭難が6割を超える。
- 県外居住者、外国人を合わせた事故者が8割を超える。

## 2 富士山の開山期（7月10日から9月10日）における遭難発生状況

### (1) 発生件数等

区分 (開山期)	発生件数 (件)	(人)	事 故 者 数				
			死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救出
平成30年	58	74	3	1	9	20	41
前年同期比	-2	+10	+3	+1	-1	+3	+4

### (2) 特徴

- 発病による遭難が4割を超える。

## 3 山岳遭難事故の防止

山岳遭難事故の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難事故を防ぐためには、以下のような点に留意する必要があります。

(1) 登山計画の作成

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に配意し、余裕のある安全な登山計画を立てる。計画を立てるときは、滑落等の危険箇所を事前に把握する。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

(2) 登山計画書の提出

作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

(3) 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

(4) 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

(5) 的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、道迷い、滑落等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

(6) 富士登山の注意事項

標高の高い富士山は平地との気温差が大きく、夏期においても山頂付近で低体温症となり救助される者が多発することから、十分な防寒対策が必要となる。(標高が100メートル高くなるごとに気温は0.6度低下するため、海拔0メートルの平地より富士山山頂の気温は約23度低い)

また、富士山では高山病等のおそれがあるため、万全の体調(寝不足、風邪気味を避ける)で登山に臨み、積極的に水分を取るなど、発病への予防対策も必要となる。

4 夏期（7月1日～8月31日）における静岡県内の山岳遭難発生状況

(1) 過去5年の発生状況

区分 (夏期)	発生件数 (件)	(人)	事 故 者 数				
			死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
平成26年	65	71		1	14	13	43
平成27年	62	68		1	9	17	41
平成28年	84	89	2		13	26	48
平成29年	69	73	1	1	13	18	40
平成30年	68	75	3	2	11	25	34

(2) 山系別発生状況

区分 (夏期)	発生件数 (件)	(人)	事 故 者 数					
			死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出	
					重傷	軽傷		
合 計	68	75	3	2	11	25	34	
前年比	-1	+2	+2	+1	-2	+7	-6	
富 士 山	富士宮口	25	27			7	8	12
	須走口	10	12				4	8
	御殿場口	10	12	1	1	2	6	2
	※ その他	6	7	1			2	4
	小 計	51	58	2	1	9	20	26
	前年比	+1	+4	+2	+1	+2	+6	-7
南 ア ル プ ス	聖岳	3	3		1		1	1
	赤石岳	4	4			1	1	2
	荒川岳	1	1					1
	その他	4	4			1	2	1
	小 計	12	12		1	2	4	5
	前年比	-2	-2	-1	+1	-3	±0	+1
そ の 他	安倍山系	1	1	1				
	天城山系	1	1					1
	愛鷹山系	1	1					1
	天子山系	1	1				1	
	そ の 他	1	1					1
	小 計	5	5	1			1	3
	前年比	±0	±0	+1	-1	-1	+1	±0

※ その他

富士山頂のお鉢巡りや宝永火口付近及び各五合目より標高が低い場所等をいう。

## (3) 目的別発生状況

区分 (夏期)	発生 件数 (件)	(人)	事 故 者 数				無事 救出
			死亡	行方 不明	負 傷		
					重傷	軽傷	
合 計	68	75	3	2	11	25	34
登 山	17	17	1	1	2	5	8
ハイキング	1	1					1
観 光 登 山	49	55	1	1	9	20	24
業 務	1	2	1				1

## (4) 態様別発生状況

区分 (夏期)	発生 件数 (件)	(人)	事 故 者 数				無事 救出
			死亡	行方 不明	負 傷		
					重傷	軽傷	
合 計	68	75	3	2	11	25	34
転 倒	25	25			9	15	1
発 病	19	24	2			4	18
道 迷 い	8	10					10
滑 落	7	7	1		2	4	
疲 労	7	7				2	5
不 明	2	2		2			

## (5) 年代別発生状況

区分 (夏期)	(人)	事 故 者 数				
		死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
				重傷	軽傷	
合 計	75	3	2	11	25	34
20 歳 未 満	11			1	2	8
20 ~ 29	4				3	1
30 ~ 39	12				6	6
40 ~ 49	8			3	2	3
50 ~ 59	10	1		1	3	5
60 ~ 69	11		1	2	5	3
70 ~ 79	16	2	1	3	3	7
80 歳 以 上	3			1	1	1

## (6) 居住地別発生状況

区分 (夏期)	(人)	事 故 者 数				
		死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
				重傷	軽傷	
合 計	75	3	2	11	25	34
静岡県	12	1		2	3	6
県外	52	2	2	9	18	21
外国人	11				4	7

5 富士山の開山期（7月10日～9月10日）における遭難発生状況

(1) 過去5年の発生状況

区分 (開山期)	発生件数 (件)	事 故 者 数 (人)	死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
					平成26年	54	
平成27年	53	58			5	16	37
平成28年	74	77	1		9	19	48
平成29年	60	64			10	17	37
平成30年	58	74	3	1	9	20	41

※ 開山期間 7月10日から9月10日まで

(2) 登山口別発生状況

区分 (開山期)	発生件数 (件)	(人)	死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
					富士宮口	31	
須走口	9	11				4	7
御殿場口	11	18	1	1	2	6	8
※その他	7	8	1			2	5
小計	58	74	3	1	9	20	41

※ その他

富士山頂のお鉢巡りや宝永火口付近及び各五合目より標高が低い場所等をいう。

## (3) 態様別発生状況

区分 (開山期)	発生 件数 (件)	(人)	事 故 者 数				
			死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
重傷	軽傷						
合 計	58	74	3	1	9	20	41
転 倒	23	23			9	13	1
発 病	20	34	3			4	27
疲 労	9	9				2	7
道 迷 い	4	6					6
滑 落	1	1				1	
不 明	1	1		1			

## (4) 年代別発生状況

区分 (開山期)	(人)	事 故 者 数				
		死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
重傷	軽傷					
合 計	74	3	1	9	20	41
20 歳 未 満	12			1	2	9
20 ~ 29	17				3	14
30 ~ 39	12				6	6
40 ~ 49	9	1		2	2	4
50 ~ 59	4	1		1	1	1
60 ~ 69	6			2	2	2
70 ~ 79	10	1	1	2	3	3
80 歳 以 上	4			1	1	2

## (5) 居住地別発生状況

区分 (開山期)	(人)	事 故 者 数				
		死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
重傷	軽傷					
合 計	74	3	1	9	20	41
静岡県	12	1		2	2	7
県 外	43	1	1	7	14	20
外国人	19	1			4	14